

平成29年度第1回釧路圏域地域医療構想調整会議議事録

平成29年12月27日（木）18:30～

A N A クラウンプラザホテル釧路 万葉の間

1 開会

2 保健環境部長挨拶

3 報告事項

(1) 委員の委嘱の更新について

12月1日からあらためて委員に就任いただいたことに対するお礼と変更委員の紹介（北海道看護協会釧路支部 杉山支部長、釧路市社会福祉協議会 土井会長、釧根地区老人福祉施設協議会 林会長）

(2) 釧路圏域地域医療構想調整会議設置要綱の改正について

本年2月に改正した設置要綱を元に戻す改正を行った旨すでに書面でお知らせしたところであるが、あらためて内容を説明し、ご了承いただいた。

(3) 議長・副議長選出

新たに委嘱期間が始まるため、設置要綱第5条により委員の互選により議長及び副議長を選出することとなるが、事務局から、引き続き議長に釧路市医師会 久島会長、副議長に同堀口副会長を提案し、異議なく了承された。

(4) 北海道医療計画〔素案〕について資料1を用い報告

4 説明事項

資料2、3により事務局から「平成28年度病床機能報告の結果」及び「地域医療構想の推進管理」について説明

5 質疑・意見等

(1) 【資料2】北海道医療計画〔素案〕について

A 委員

8ページ3に「医師や看護師など医療従事者の確保と質の向上」とあり、後のページに具体的な事について書かれているが、最近では旭川医大は地域枠をやめ、国際化にシフトするとなっている。一方、北大で地域枠を作ったという情報が流れたが、入学した人に対して地域に行く奨学金を出すということで、全くそういう話ではないということであったが、いろいろな大学の動きがある。前の調整会議でも医師確保ということが出ていたが、病院、診療所があっても医師がいないとどうにもならない。69ページには「医師数が減少している領域の現状を把握・分析し、医育大学等とも連携した取組を推進します。」とあるが、現実としてどうなっているのかというのが示されていないし、方向性もちょっと見えない。私の印象では大学との連携は後退していると考えている。素案を見て、釧根地域の医師確保対策をもう少し道と緊密に連携し、具体的に煮詰めていってほしいし、ある程度の道筋を示していただけたらと思う。

事務局

道の医療計画を作った後、来年の9月までに釧路地域版の医療計画である「地域推進方針」を策定する予定。計画を作る際、本庁とも連絡をとり、また、先生

方のご意見もお聞きしながらなるべく計画に反映させたいと考えている。

A 委員

この前道の局長が来た時にも話したが、道の対応が必ずしも地域の現状と合っていないこともある。もう一つは、大学の各科の教室と地域枠とのずれがあり、大学からも医師を派遣しづらいということもあり、地域枠の対象が公的病院だけに限られているとなかなか。来年度もう一度対象の病院や診療所を再考することになっているが、道に対し、釧根地区がこういう状況であるということをしちつと示していったほしい。

議長

地域枠で育った医師が地域に来やすいような関係を作っていきたいという話だと思うが、道の方と相談し、できるだけ速やかに地域の医療資源が増えるよう努力していただければと思う。

(2) 推進シート、公立病院改革プランおよび公的病院2025プランについて

議長

「地域医療構想推進シート」というのは、地域医療構想実現に向けての工程表と考えて進めていくとのことだが、現状では、新公立病院改革プランとして、市立釧路総合病院、町立厚岸病院、標茶町立病院から、公的病院2025プランとして、釧路労災病院、釧路赤十字病院、摩周厚生病院から報告を済ませた段階で、分析はされておらず、まだ明らかにできないということではどうか。アンケート調査の部分だけを落とししたということではどうか。

事務局

公立病院改革プランは平成28年度中に提出されており、公的病院2025プランについては先日提出いただいたところ。まだ個別医療機関とシートにどういう形で落とし込むかという調整を行っていないため、それをこれから進めさせていただくことになる。

今後の予定としては、たたき台をベースにこれから各委員と意見交換をしながら3月の調整会議までに間に合うように案を作成し、併せて、公立病院改革プラン及び公的病院2025プランについてもシートに落とし込み、次回の会議で各医療機関からも説明いただきたいと考えている。

A 委員

当病院もプランを提出したが、病院の将来を考えていく時に、やはり診療報酬の改定がどうなるのかということも当然関わってくる。それから、「メディネットたんちょう」の記載もあるが、これが今後発展していくためにどういうことが必要かまったく考えないでここに落としている。

また、シートについては一度作ったら固定なのか、その後診療報酬改定も当然あるので、駄目だったから元に戻すとか変えられるものなのか、というのは、新しい病院を作るときに、例えば急性期病院を作るなんて言ったらそれは絶対駄目だというようなことになり始めている。状況変化により修正できるということであれば我々も報告書を手軽に書いて出せる。新しい問題が起こった時に、やはりこれはやめようとなっても、一度書いたものを元に戻すのは駄目と言われると病院としてはちょっと厳しい。

事務局

シートについては29年度中に一度作るということになっているが、その後の各医療機関の自主的な取組、調整会議の協議を踏まえた取組、あるいは診療報酬の改定というのもあり、毎年度ローリングしていくという前提になっている。その都度方針を変えるというのがいいのかどうかというのは、中々お答えしづらい

が、ローリング自体は可能。

診療報酬改定の動向を見ても、ICTの活用がクローズアップされているので、これからメディネットたんちょうをどうしていくかという話も当然必要になってくると思っている。

議長

メディネットたんちょうを継続していく上では資金繰りもかなり大変だということベースにおっしゃったと思うが、それなりの応援というか、そういうところをしっかりとしないと、いかに充実してきても経費が賄えなければ頓挫してしまう。そういうところを心配されていると思う。

事務局

地域医療再生基金で整備したこうした電子カルテ公開型のネットワークがそろそろ更新時期を迎えているという声もあるが、更新やランニングに対しての手当というものはないため、道に相談しても現状は無理ということになっている。更新に対する支援は中々厳しいところはあるが、公開型を拡大する等に対しては、今の基金の事業でも手当はされている。

議長

本体が維持できるよう頑張っていただけだと思います。

ここまでの話、事務局で作成したたたき台をベースにしてこれから各委員と意見交換しながら案を作成していくこと、公立病院改革プラン及び公的病院2025プランについては、3月の調整会議までに推進シートに落とし込み、病院からも説明いただく、この2点に関してご了承いただけるか。

委員

(反対意見無し)

議長

このほか、地域医療構想推進シートについて事務局から意見を求めたい項目があれば説明願いたい。

①シートの項目および不足する機能の把握の仕方について

事務局

シートの各項目について、削ることはできないが追加は可能であるため、追加が必要な項目があれば意見をいただきたい。

また、不足する機能(回復期)の実際の医療需要の把握について、把握の方法について意見をいただきたい。

議長

意見あればここでいただいてもいいし、後ほどでも意見いただければと思う。急には難しいかと思うが、話し合う中でいい案が出ればいいと思う。

委員

(意見等無し)

②部会の設置について

事務局

昨年度もお話ししているが、部会の持ち方についてあらためて意見をいただければ、それに沿って考えていきたい。例えば、地域版医療計画を検討する圏域連携推進会議の下に救急医療部会と在宅医療部会があるので、そこで構想について

もセットで検討するといったことや、救急医療部会に回復期のメンバーも加えるなど。

議長

いずれ必要になってくると思うが、今事務局の話しを聞いて、もう少し各病院のプランが具体化して詰める部分が決まった時点で部会を作るということになっていくのかと思うが、各病院長はどのようにお考えなのかお聞きしたい。今お話しするのは難しいと思うので、進捗状況を見ながら必要となった時に部会を作るという方向性でご了承いただければよろしいか。

委員

(反対意見無し)

議長

では、将来的に必要なときには部会を設置するというご意見をお願いしたい。

③根室圏域との協議の進め方について

事務局

根室圏域との今後の継続した協議の進め方について、当面事務方で続ける方がよいか、院長同士の集まりが必要か、あるいは協議すべきテーマについてご意見をいただきたい。

A 委員

事務レベルで話し合ったことは、それはそれで良かったのではないかと。

先ほど報告があったように、釧路圏域にこういうことをお願いしたいということ根室の調整会議で話し合っていて、それを釧路の調整会議に投げかけていただくことがファーストステップだと思うので、ルールとか定期的にとにかくことにこだわらず、根室圏域の話し合いをいつまでにもお願いしたいと申し入れ、根室からの投げかけに対し、釧路でできることできないことを話し合うことになるかと思う。そういう方向でいいのではないかと。

議長

そういう方向でどうか。皆様もよろしいか。

委員

(反対意見無し)

④医療機関側の理解の促進について

事務局

シート作成要領には、「地域医療構想は一般病床、療養病床を持つ全ての医療機関が参加して構想の実現に向かっていく」とある。医療機関側の理解を促進すべきということであれば、説明会の開催も検討する必要があると考えており、様々なデータに精通している学識の方や、他圏域の状況を把握している道庁担当者、あるいは診療報酬の動向を話せる方などのお話しを聞くことで、圏域全体の意識が高まるということも考えられるので、その様な場を持つべき、若しくは、こういう人に話してもらえばいいのではないかとといったリクエスト含めてご意見いただきたい。

A 委員

現在東北大学でこういうことを専門にやっており、データを豊富に持っている

先生がいる。その釧路版を皆さんに話してもらおうのはどうか。以前も来てもらったことがあるが、この前話した時にかなりバージョンアップしていると言っていた。

B 委員

まずお願いというか確認になるが、それぞれの二次医療圏でかなり医療資源も異なれば、住んでいる地域も異なる。その地域にあった医療の提供体制を考えなさいということで、回復期だとか急性期だとか色分けにこだわるというのはあまり必要がないと思う。我々の病院もそうだが、患者一人が高度急性期から急性期、回復期と刻々と変化していて、どこでどういうふうに色分けするのかというのは少々難しい。

地域医療構想は何故必要かということ、未来にわたって医療がちゃんと完結できるかというのが一番大きな問題であって、特に在宅医療の推計については、道の委員会に出ていたが、委員は誰も理解できなかった。数字に走るのではなく、この地域でどういう医療が大事であって今後必要となっていくか、また、今の医療をいかに壊さないかということも大事な論点だと思うので、こうした視点でもお願いしたい。

議長

講演やシンポジウムに関しては、今後検討しながらやっていただければと思う。

(3) その他

C 委員

調整会議を年2回行っているが、スピード感としてはこういう進め方でよいのか。北海道は全国的には結構遅れているのではないかという意見を聞くし、釧路は中々難しいのではないかというような話しも聞くが、道としてはこういうスケジュールで大丈夫と考えているのか。

事務局

圏域によっては親会議の間に部会を挟んでいるところもあるので、そういう意味では、釧路は議論の機会が若干足りないという気もしている。部会で何回か集まり、それを親会に持ち寄るということでやっていくと、多少スピードアップにつながると思う。

C 委員

今後部会を設置していくのであれば、当院としても協力する。

根室との協議に関し、基本的に根室地域は町立別海病院と町立中標津病院と市立根室病院で決まるということで、根室の要望をこちらで聞くということで書いており、それで私は全然問題ないと思うが、どうしても公立病院・公的病院ということを出してくるわけで、地方の病院はどうしても公的な病院の方が多いので、こうした議論になるが、首都圏は圧倒的に法人病院が占めており、法人のプランが示されないと議論できない状況にある。この先も法人病院のプランというのは出てこないのか。

事務局

本庁に確認を取っていないが、今回のアンケート調査的なものは今後も行われていくのではないかと思う。これらも併せてシートの中に落とし込み、それをローリングさせていくことになると思う。